

～かけがわ学力向上ものがたり 第4章～

家庭の101話ものがたり



掛川市では、子どもたちの「生きる力」（「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましく生きるための健康や体力」までを含めて構成する）を育てることを目指し、学校と家庭や地域などが連携して、市民総ぐるみの教育を進めています。

また、「かけがわ学力向上ものがたり」として、掛川らしさを発揮しながら、子どもたちの学力向上を推進しています。昨年度は、学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成し、教育活動の充実に努めて参りました。

そこで、本年度は市民総ぐるみの教育をさらに発展させ、「かけがわ学力向上ものがたり」の家庭における取組、「家庭のものがたり」を作成しました。みなさんの御家庭でのエピソードが、「子どもで悩んでいる方」「新たに小学校や中学校に入学する方」などの家庭教育のヒントになれば幸いです。



掛川市教育委員会

家庭の101話ものがたり

目次

学力向上につながるヒントが必ずあります！

学力向上に向けて・・・・・・・・	2
お茶の間団らんものがたり・・・	3
生活のリズムものがたり・・・	8
学習習慣ものがたり・・・・・・・・	11
約束やきまりのものがたり・・・	14
本や新聞のものがたり・・・・・・・・	17
我が家ならではのものがたり・・・	20

家庭教育の充実

～お茶の間宣言を実現する子育て～

- ① 子育ては温かい家庭のもとで
- ② 子どもの学習の始まりは、親のまねから
- ③ 家族の笑顔と元気が
子どもの生きるエネルギー
- ④ 子育てに不安はありませんか？

「お茶の間宣言を実現する子育てのあり方（提言）」より

学力向上に向けて



「学力の高い子掛川 10 の法則」(平成 27 年度)

「平成27年度全国学力・学習状況調査」において、「児童生徒質問紙」と「学力」の相関関係を分析すると、次のような子どもが国語や算数・数学、理科の平均正答率が高い傾向にあります。

- ① 朝食を毎日食べている。
- ② 毎日同じ時刻に起きている。
- ③ 新聞を読んでいる。
- ④ 読書が好き。
- ⑤ 家の人と学校での出来事を話す。
- ⑥ 家の人や参観会などの学校行事に来る。
- ⑦ 地域や社会で起こっている出来事に興味がある。
- ⑧ 自分で計画を立てて勉強をする。
- ⑨ 友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意。
- ⑩ 1日あたりのテレビゲームの時間がない、もしくは少ない。

家庭での実践に向けて

各家庭において、子どもの生活習慣や学習習慣をよりよいものにする「家庭実践項目」を視点に、「家庭のものがたり」の実践をお願いしました。

【家庭実践項目】

- ① お茶の間に家族と団らんしましょう。
 - ② 生活のリズムを整えましょう。
 - ③ 学習習慣を身に付けましょう。
 - ④ 約束やきまりを守って生活しましょう。
 - ⑤ 本や新聞等を読む時間を増やしましょう。
-
-



＜小学校＞

「夕食」

和

小学校高学年になると、あまり子どもの口から学校の話は聞かなくなります。朝もバタバタ慌ただしく時間が過ぎてしまいます。

だから、我が家では、夕食の時間が、家族の団らん時間です。とは言っても、父親は仕事で帰りも遅いため、私と子どもたちの夕食になってしまいます。

そんな夕食の時間、必ず出る話題は「給食」の話。私が給食センターに勤めていることもあり、「今日のお母さんの給食はどんなだった？」「お母さんは何が担当だったの？」「今日は〇〇がおいしかった。」など、話をします。低学年の頃は、給食がとても苦手だった我が子でしたが、今では、残すことなく食べているようです。毎日、共通の話ができることを、嬉しく思っています。

「我が家のお茶の間」

和

私は3人の子どもをもつ父親です。我が家のお茶の間について紹介します。

私は、職業柄、3日に1回は職場に泊まり、子どもたちが休みの日でも仕事で家にいないことが多々あります。そこで、子どもとのコミュニケーションの場として、どこが一番いいのかと考えた結果、我が家のお茶の間は「風呂場」がいいのではという結論に至りました。今までも子どもたちと一緒に入浴していましたが、お茶の間を意識した入浴ではなかったため、あまり話を聞くこともありませんでした。

しかし、今年から2人目の子どもも小学校に通い始め、私も研修会等への参加をきっかけに、「お茶の間の大切さ」を再認識しました。そこで、お茶の間を意識して「風呂場」で子どもたちと接し、冷静に観察してみると、子どもたちの話を聞いてほしいオーラを感じ取ることができました。

まだまだ十分とは言えませんが、我が家のお茶の間である「風呂場」で心身ともにリラックスした状態で、子どもたちと一緒にアイスを食べ、今日あった出来事を聞いたり、言葉の勉強をしたり、ときには、叱った後のフォローの場としても活用しています。子どもたちもだんだん成長していくため、いつまで続けられるかわかりませんが、可能な限り続けていきながら、新たな我が家のお茶の間を探していきたいと思います。

「家族でごはん」

和

我が家は、夏野菜を庭でみんなで育てます。今年はトマトとなすとピーマンでした。毎年野菜の苗を近所の苗屋さんまで自転車で買いに行き、ほしい苗をそれぞれ自分で選びます。娘はハートの形になるトマトの苗を選んだ年もありました。育った野菜を家族そろっておいしくいただきました。また、来年も育てることが楽しみです。



「みんなが集まる、笑顔が生まれる、我が家のお茶の間」

我が家のお茶の間はダイニングです。家族はもちろん、友達が遊びに来て和気あいあいと共に時間を過ごす場所でもあります。

お茶を飲みながらというときもあれば、飲まなくても何となく家族が集まる場所です。1日の出来事を話したり、何気ない話をしています。家族のコミュニケーションは、毎日会話をする事だと思います。何気ない会話が心をリラックスさせ、癒やされる、「家族っていいな」と感じることができます。

これからも、家族とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。



「話をする事」

我が家では、家族が揃う朝食と夕食時には、テレビをつけずに、みんなで話をするように心がけています。

天気のこと、学校のこと、学習のこと、友達のこと、世の中の事、スポーツのこと、趣味のこと、仕事のことなど、話題にはとにかく事欠きません。話すことで、家族のことをもっと知ることができます。また、困っていることなどには、アドバイスや早めの対処ができます。そして、話から会話や夢がどんどん広がっていきます。

そう考えると、相手の顔を見て話をするということは、本当に大切なことなのだとしみじみ思います。

便利なものが増えていく最近ですが、大事にしたいこともたくさんあります。それを含めて、これからも息子たちとたくさん話を続けていきたいと思っています。



「我が家のファミリータイム」

平日は、家族そろってごはんを食べることができないので、休みの日は、家族そろってごはんを食べるようにしています。また、子どもと別々の部屋で寝ているので、週末は、子どもの部屋で寝るようにし、普段できないゲームをしたり、布団に入ってゆっくり話せる時間をつくるよう心がけています。



「3人娘とのコミュニケーション」

我が家の3人娘はよくしゃべります。帰宅するなり、今日の出来事を我先にと、3人一斉に話を始めます。主語はないし、言葉も足りないのかわからないときもありますが、とりあえず最後まで聞くことが私の日課となっています。おかげで、学校での娘たちの生活の様子がなんとなくわかっているつもりです。

3人がそれぞれ話したいことが違うので、誰かが途中で割り込んで話すようなものなら、すぐにケンカとなってしまいます。それが賑やかなこと。

でも、これが我が家のコミュニケーションの1つであり、娘たちの心と体の成長を感じさせてくれる大切なふれあいと感じています。これからもほほえましく見守りながら、ときにはケンカの仲裁に入ったり、叱ってみたり…。この温かく、最高の時間を楽しんでいきたいです。



「一緒に過ごす時間」

家族全員がそろっているときは、テーブルゲームなどをする時間を増やそうと努力しています。父親は仕事で、朝早く、帰りも遅いことが多いので、一緒に過ごす時間を大事にしたいと考えています。自分の部屋にこもるのではなく、今日あった出来事など、色々な話をして、心が通じ合う家庭になればと思います。

和

「リラックスの証明」

私の家は3人家族です。夕食後にリビングでゆったりしています。いつも誰かがおならをすると、次々におならをします。おならで挨拶をしているようで、3人で笑い合い、転げ回ります。なぜか、毎日の日課のようになっていました。

「リラックスの証明」だからみんな納得です。2人のときは腹が立つのに、3人だと愉快になるのは不思議です。

和

「私と娘の時間」

私と娘の大切な時間。

朝、登校班の集合場所まで一緒に歩く時間。

「今日は、何の授業があるの？」私の質問に、「今日は大好きな図工が2時間！」と答える娘。今日も一日頑張ってるの気持ちを伝えます。

夕方、仕事から帰り、一番に見るのが交換ノート。

今日の一日の娘の気持ちがつづられています。最近は、漢字がんばりノートに変身。私からの漢字の問題を一生けん命解いています。

夜、寝る前の絵本タイム。0才の頃から毎日続けている読み聞かせ。

「今日はこの2冊！」と娘が選んできた絵本を読むことに幸せを感じています。

仕事が忙しく、思うように娘と一緒にいる時間が取れない毎日。だからこそ、これからも続けたい3つの大切な時間。

和

「思い出」

先日、子どもに物をあまり買ってあげない私が、靴とTシャツを一枚買ってあげました。嬉しかったのか、靴は勉強机の上に、Tシャツはきれいにたたみ、ケースの中に大事に置かれていました。数年前に買ってあげた白クマのぬいぐるみは、いつも一緒に寝ています。

時々、「これはパパが買ってくれたもの」と思い出深そうに言い、大事にしています。古いから捨てればと内心思っていたのでビックリしました。妹も新しい靴があるのに、「パパが買った靴」と言い、汚れた古靴をいつも履いています。

我が子に物を大事にすることを教えられた瞬間でした。



愛

「こちょこちょ遊び」

娘は「こちょこちょ」されるのがとても好きで、よく「こちょこちょして遊ぼう」と言います。ですから、家族4人で、こちょこちょして遊ぶことがよくあります。みんな本気になって「こちょこちょ」するので、たまに泣いてしまうこともありますが、遊んでいるときはみんな笑顔になれて、楽しいので、良いコミュニケーションになっていると思います。

もっと大きくなったら、「こちょこちょして」なんて言ってもらえないと思うので、言ってくれる限り「こちょこちょ」遊びをみんなできたらいいな、と思います。



「親子のコミュニケーションツール」

和

我が家で実践していること、それは親子の交換ノートです。普段私（母）が仕事をしているため、帰りが遅くなってしまいう日があり、帰宅する頃には子どもが既に寝てしまって会話ができないまま1日が終わってしまうことがあります。

「どうしたらコミュニケーションをとれるのかな」と考え思いついたのがこの方法でした。書く内容は、その日にあった出来事や、今度のお休みはこんなことをしたい、クイズや絵など好きなことを書いて1ページ埋めたら次の人が書くという流れで行っていますが、色々なことが書かれていて、ノートを開くのがとても楽しいです。また、書き終えたノートもそのまま思い出として残しておけるのでお勧めです。

今後もこの交換ノートを続けていこうと思っています。そしていつか娘が大人になったとき、この交換ノートを見せてあげようと思います。

< 中学校 >

「お父さんとじゃんけん」

和

小学校の頃の話です。

家にはテレビが5台あります。4人家族なので見たい番組はいつでも見ることができます。食事中はテレビをつけない方がよいのですが、いつもテレビを見ながら、必ず4人で夕食を食べています。

問題は、どの番組にするかです。そこで、じゃんけんをして勝った人に選択権が与えられます。お父さんが勝てばNHKのニュース。子どもたちからブーイングがあっても、もちろん替えられません。ある朝、「学校へ行きたくない、休みたい」と言い出した息子に、「じゃんけんしよう」とお父さんが言いました。3回勝負をし、3回とも息子の勝ち。そこで言った言葉が「今日は3回も勝ったから、いいことがあるぞ。学校へ行ってこい」。そう言われ、笑って登校できました。お父さんのじゃんけんは「運」でなく、自由自在に操ることができる魔法の道具でした。

「どんな朝でも「おはよう」から始まる朝」

和

朝起きて、眠い目をこすりながらお茶の間に来たら「おはよう」の挨拶を必ずすることが我が家のルールです。寝る前に子どもに叱ったまま寝た日も、朝は「おはよう」の挨拶でリセットされます。眠い目で「ぼーっ」としたまま、子どもが黙っているときは、親から「あれ？起きてたの？」と言え、ば、「おはよう」が返ってきます。どんな気分の朝でも、「おはよう」の挨拶から一日が始まり、子どもとのコミュニケーションをとる一手段として大切にしています。

「子どもが自分から話したくなるような雰囲気づくり」

和

家族そろっての夕食が理想ですが、いつも1時間遅れぐらいで1人食卓についています。時間通りに食事が済めば片付くなど、いろいろ思うことはありますが、皆の食事が終わり、片付けが済んだ後、1人で食べているときの子どもの様子を見て気付いたことがあります。

父や祖母、妹と一緒にいると、学校のことや伝達事項、あと友達や先生のこと自分なりに考えていることが言いにくいようで、あえて周りに大勢いないときの方が、ぽつぽつと話してくれることがあります。今のところ深刻な問題はありませんが、普段の何気ない場面で、悩みが大きくなる前にサインが出たら早めに対応できそうですし、こちらから根掘り葉掘り聞き出しても、そうすぐに返事がくるわけでもないの、自分から話したくなるような雰囲気をいつも保つことはとても大切だと思います。また、とても幼稚な方法ですが、時々好物のおやつなどを出しておく、リラックスして、頼み事や相談を持ちかけやすいように感じます。こちらの意見もわりと素直に聞いてくれるような気がします。



「私たちの道徳」を親子で読んで

プライドやおごりのために、後にずっと後悔しなければならない人生。未熟さ故にそうしてしまったことを三十年余りすぎた今も後悔の念が残る。

人には誰も過去を振り返り反省することはある。反省はしても、後悔しない人生を送れるように、未来ある子どもには日々を大切に過ごしてほしいと願うし、後悔しないようにするためには、どうすればいいかを継承していかなければならないと思う。



「祖父母の願い」

スポーツの話をして。祖父母との生活で、わからないことが多くて心配です。毎日無事に過ごせたら嬉しいです。



「我が家のルーティン」

私は帰宅すると必ず娘と息子に、今日の出来事を質問します。これは我が家のルーティンです。そうすることで、その日、学校や塾や習い事などのコミュニティにおいて「どんな心境で」「どう」過ごしたかがわかるからです。

一方、うちの娘も質問されたことがわかっているの、「パパが帰ってきたら話そうと思ってた！」と、笑いを堪えながら私の帰りを待ちわびていることがしょっちゅうです。

ある日。

父「おう、のんさん、今日どうだったか。」

娘「そう！今日ね（ゲラゲラ）、体育で倒立前転をやったの（ゲラゲラ）、倒立したら背中からマットにつかないといけないんだけどね（ゲラゲラ）。私とか友達とかは背中じゃなくて足が先にマットに着いちゃって（ゲラゲラ）。どうしてもブリッジしちゃうの（ゲラゲラ）。『超きれいなブリッジだね』って言うの（ゲラゲラ）。何度やってもエビ反りになっちゃうの（ゲラゲラ）。だから、お互いにそれを見て笑いが止まらんかったに（ゲラゲラ）。

また、ある日。

父「おう、のんさん、今日どうだったか。」

娘「そう！今日ね（ゲラゲラ）、体育でソフトボールをやったの（ゲラゲラ）。友達とキャッチボールをやったんだけどね（ゲラゲラ）、左手にグローブしててもつい右手で取ろうとして（ゲラゲラ）、友達が『何やってるの！』って絶叫して（ゲラゲラ）、超やばかったに（ゲラゲラ）、でも友達は『神ってる』ね（ゲラゲラ）、『グローブ動かさないで』って言われて構えてたらそこにちゃんとボールが来るの（ゲラゲラ）、うちはグローブをばくばくしてるだけでよかったに（ゲラゲラ）

娘の報告によると、どうやら体育の授業では親の想像を超越するビックプレーが毎回繰り広げられているようです。

まあ、楽しく過ごせているようですから、良しとしますか。



< 小学校 >

「朝早起き、夜早寝」



私の仕事が遅いせいか、保育園の頃からいつも寝る時間が遅く、朝も起きられないという生活を繰り返していました。

1年生に入学したときも、朝がなかなか起きられず、集合時間に間に合わないときもありました。まずは、「夜早寝」をすることから始めてみようと思ってみました。お風呂に入ったら布団に入ろう、電気は消そう、子どもの足のマッサージしようなど、寝やすい環境をつくりました。足のマッサージは、足が温かくなり、寝付きもよくなるので、今も「やって」と言われます。夜早寝することで、朝は自然に起きられるようになりました。リズムを整えるまでには、時間がかかりましたが、今は頑張っただけよかったと思います。

また、寝る前の読み聞かせを日課にしていたときもありました。子どもと相談しながら決めていけたことがよかったと思っています。

「あったらいいな！」



朝眠たくて、ぼんやりしがちですが、我が家の場合、NHKのトレンド情報室のアイデア商品のコーナーが大好きで、毎日楽しんでいます。

6時45分頃に始まるので、それまでに登校の準備をし、息子が焼いてくれる卵焼きで朝食をとります。家族でトレンド情報局を見て、「これ便利だね」「こんなのはどうかな…」など、あったらいいな、みたいなアイデアを出し合うのが楽しいです。それで、登校のリズムを整えることができるようになりました。

「早寝早起き」



我が家は学校から帰ってきて宿題など終わると、5時過ぎには入浴します。ゆっくり入浴してから夕食を食べるようにしています。そうすると、入浴中にリラックスして、学校のことや悩みを話すので、考えながら答えてあげられます。

夕食が終わると、本を読む時間をつくり、8時30分には布団に入ります。

朝は、6時20分に起きて、30分で身支度を済ませて朝食を食べます。集合の7時13分には、間に合うように家を出ます。

生活リズムを早めに設定することで、時間の余裕が生まれます。

「原田野球少年団」



我が家では、毎週末は学校に行く平日よりも、朝早く起きることから始まります。子どもは女の子ですが、男の子達と一緒に野球をやっています。団員14人の小さなチームですが、家族みんなで応援して頑張っています。土曜日、日曜日は、子どももゆっくりしたいのかなと思うときもありますが、早起きなので、前日は9時に寝ます。そして早起きし体をたくさん動かすので、夜も9時には寝ます。宿題、上靴洗いなどは金曜日にすることで、良いリズムができています。弟も一緒になって早起きを頑張っているのだから、これからも応援していきたいと思っています。

「ラジオ体操」

和

3年ほど前から、平日の朝食後、子どもたちと一緒にラジオ体操をしています。きっかけは、ラジオ体操のCDをもらったので始めました。特に、冬は体が温まります。また、子どもたちの顔つきや動きを見るので、体調のチェックにもなります。

子どもの目を覚ますための運動として縄跳びなどをさせたこともありましたが、雨や暑さで挫折してしまいました。ラジオ体操は室内で母も参加できるので、長続きしています。

朝からイライラすることも多いですが、思いきり体を動かして（息子をつかんで振り回すイメージで。息子も母を？）すっきりしています。

隣に住む祖母も「いいわね」と始め、体調がよいそうです。家族一緒にできる習慣として、細く長く続けたいと思います。

「小さなときから積み重ね」

和

我が家では、まだ赤ちゃんのときから、夜、入眠する時間を大切にしてきました。小学校低学年くらいまでは、20時30分までには布団に入るようにしています。大人のリズムに合わせると、どうしても遅くなってしまいますが、我が家は0歳児の時から、リズムをつけてきたので、2才くらいには、時間になると布団へ行き、すぐに眠ってくれるようになりました。初めは1時間以上眠らない子どもに付き合ったりして大変かもしれませんが、後々のことを考えると、21時以降は自分の時間として有意義に使えたり、1日の中での大切な時間になりました。

小さなときからの積み重ね。生活リズムは、子どもが作るのではなく、大人が日々意識してあげることで、当たり前のこととして身に付いていくのでは、と考えています。

「あいさつ」

和

朝、みんな眠くて口数も少ないですが、みんな元気に1日を過ごせるように「おはよう」「いただきます」「いってらっしゃい」のあいさつを元気よく声かけ合うようにしています。

「子どもの成長」

和

保育園から小学校へ上がり、生活リズムががらっと変わりました。朝ゆっくり朝ご飯を食べ、好きなテレビを見てから支度をしていたのが、起きて数分後にはごはんを食べ、最後まで食べきる前に着替えの時間、そして着替え終わったらすぐ家を出る、というように全ての行動が時間で区切られるようになりました。

それは夕方も同様で、宿題があることにより、自由時間がなくなってしまったことに本人は不満なようです。

しかし、そうはいても小学校へ上がる前の子どもを思い返すと、今はずいぶんたくましくなったな、と感じるときもあります。トイレも一人で行けなかった子が、今ではよく「いってきまーす」と言って、一人で集合場所まで行けるのです。子どもの成長は人それぞれ。伸びていないようで伸びている。

和

「野菜嫌いをなくそう」「自分のことは自分で」

4年生になる娘ですが、未だに野菜と果物を食べません。細く刻んでみても、歯応えが嫌で食べてくれません。だったら、と思い、大きいままでちゃんと食べる意識を持たせ、頑張らせて食べさせています。煮たり、お味噌汁に入れたり、歯応えをなくして、「野菜を食べられるんだ」という気持ちにさせるよう、今、娘と頑張っています。

果物は、どうしたら食べれるようになるのか、今は考え中です。

また、妹は、なるべく自分のことは自分でやれるよう、ただ洗濯物をかごに入れ、それを自分でタンスにしまうようにしています。お手伝いというより、自分の仕事としてやってもらっています。姉より先にタンスに入れると得意気にしています。

< 中学校 >

和

「我が家の朝食」

「朝ご飯はしっかり食べる」というのが我が家のモットーで、毎朝、ご飯に味噌汁におかずというような食事を用意していました。しかし、子どもたちからは「朝ご飯からこんなに食べられない」「今日はこういう気分じゃない」との声が。そこで、子どもたちに何を食べるかを曜日別に決めてもらい（月曜日：パン、火曜日：めん、水曜日：おにぎり、木曜日：パン、金曜日：ぞうすい）内容については私にお任せとしました。パンの日は食パンでピザ風にしたり、めんの日には温かいうどんにしたり、ときにはスープや果物を添えたりして、少しは工夫しています。栄養バランスも大切だけど、何も食べないよりは、何かを食べていく方が大切だと思うので、気楽に考えて朝食を用意しています。

学

「自律」

どんなに疲れていても、夜7時になると「勉強しなきゃ」と言って、勉強を始める。その自律の心、大人になっても持ち続けてください。

月	火	水	木	金
パン	めん	おにぎり	パン	ぞうすい
				





<小学校>

「漢字テスト～連続合格を目指して～」



小学生になってから決定的に幼稚園と違うことがあります。

それはテストがあるということです。

息子も2年生になり、テストの数も難易度もアップしてきたのですが、その結果に対して私たちは一喜一憂せず、見過していました。それでよいと思っていました。

しかし、それは間違いだったと思う出来事がありました。

それは、毎週行っている漢字テストで3週連続不合格をもらってきた時でした。不合格になると合格になるまで不合格した回の方が上乘せされていきます。3回分の再テストを背負った息子に対し、さすがにまずいなと思い、漢字テストの練習を始めました。まずは再テストの合格から始まり、漢字テストの日とその前日の朝に、新しい漢字テストの勉強を見るようにしました。すると、今まで再テスト続きだった子が、連続合格の快進撃が続き、なんと連続17回まで失敗せず合格し続けました。

そして、残念ながらケアレスミスで18回目のテストを失敗してしまった息子は、答案を持って帰ってきた日、大泣きして帰ってきました。くしくもその日は通知表を持って帰ってくる日でもあったのですが、息子は「通知表なんかどうでもいい！漢字テストが…」と落ち込んでいました。今後どうするのかなと思っていましたが、「また漢字頑張るよ」と言ってくれました。

初めは無理矢理やらされている感の強かった漢字の練習も、いつからか、「ようし、漢字テストの練習やろう」と自分から言う様になり始めていました。「頑張れ」と「よく頑張ったね」を繰り返していくうちに、嬉しい、また頑張ろうという気持ちが生まれ、やればできるという自信と、失敗した後の奮発力を手に入れたと思っています。

勉強するのは結局自分自身ですが、その雰囲気作りや、やり方を教えてあげることは、干渉ではなく成長するための調味料であると感じました。

「苦手な漢字の練習法」



我が家では、できるだけ毎日漢字の復習をするようにしている。

漢字が苦手な息子は、覚えた漢字を2日経てば忘れてしまう。ですから、覚えさせるために、10回でも20回でも書き取りをさせていたが、息子にとってそれは苦痛であり、覚えるというよりも作業になってしまっていた。

なんとか漢字に興味を持ち、楽しく覚えられる方法はないのかと色々試してみた。まずは、オリジナルの文を作り漢字を書かせる。ただの文では、息子はそう簡単に興味を示さない。ここは言いたくはないが「おかあさんのおなかはふとい」「おかあさんはおおぐい」という文にしてみた。それを見て「ぎゃははは」と笑った。そして、漢字を書く意欲がわき、忘れていた漢字も覚えようとしてくれた。

「作戦成功、でもなんか腹立つな、まあ、ここはぐっと我慢」

しかしこの方法は長く続かず、覚えていた漢字はすぐ忘れることに…。

次に試したことが、それぞれの漢字の特徴を探すことだった。

ある時、「公園」の「公」を「工」と書いた。

その時私は、「公園でハムを食べる！公園でハムを食べてる人ってあまりいないよね、

面白い人だね」と息子に言った。「公園の「公」はカタカナで「ハム」って書いてるみたいじゃない」と言った。息子は「なるほど!」と思っただけで、それからは公園の「公」を間違えることはなくなった。そして、私は欲を張り、「公民館でハムを食べる」「公会堂でハムを食べる」と続けた。

いくら考えても特徴のない漢字もあって、そういうときは「これは覚えるしかない!」といい加減になることもあるが、とにかくできる限り漢字の特徴を探し、その言葉を使って印象に残るエピソードを付け加える。こうした事で、忘れてしまった漢字が頭に浮かぶようになった。

今の息子には、この方法が合っているらしく、最近ではジェスチャーや2人しかわからない暗号や呪文的なものがたくさん増えた。

そして、漢字の練習をするときには、「漢字を書きたい!」と思い気持ちが少しでも高まるように、普段使わない書き味のよいゲルインクボールペンを特別に持たせている。

まだまだ2年生。私たちの漢字の旅は始まったばかりである。

「子どもの思い、親の思い」



子どもが、小学校に入ると同時に勉強が始まり、どのように学習習慣を身に付けたいか、よく夫婦で話をしたり、先生や友達に相談をしたりしました。学習方法でよいと思われることは、色々試しましたが、失敗の連続でした。子どもが勉強を始めたとき、側で様子を見てみると、子どもはいつもと違う姿で落ち着いて勉強に取りかかっていました。私はびっくりしたので、勉強が終わった後、子どもに聞いてみました。子どもはお母さんが側で見てくれたからと言ってくれました。子どもの言葉に嬉しさと、今まで何をしていたのかと考えさせられました。子どもの学習習慣をとおして、今まで見えていなかったことがわかり、これからも、子どもと共に、色々なことに挑戦していきたいです。

「学習習慣・生活習慣」



習い事で4日間の宿題が出ます。以前は、声をかけて毎日1ページずつさせていました。最近では、子ども自身に、何曜日までに4ページするには、どうしたらよいかを考えさせるようにして、自分で計画を立てさせます。そうすると、「自分で決めたことだから」と、親から言われてやらされていたときと比べ、すんなりやるようになったと思います。

夜、寝る時間は、何も言わないでいると、ずるずる遅くなってしまおうので、お風呂に入る前に、「何時には寝るよ」と言います。見たいテレビがあっても、お風呂をあがって寝る準備（歯磨き、トイレ）ができ、寝る時間まで、時間があればテレビを見ます。寝る時間になったら、テレビが途中で止めて、一緒に行くようにしています。次の日、学校があるときはできるだけ早く寝られるよう、親が引っ張っています。

「我が家の生活と学習習慣」



我が家では、特別な用事がない平日は、子どもが学校から帰ってくると、まず最初に宿題をします。習い事などがあって、時間がないときは、習いごとが終わってから夕食前に宿題をします。夕食の後やお風呂の後では眠くなってしまおうので、必ず夕食の前にはすませます。そのため、夕食は少し遅くて、7時頃ですが、8時にはお風呂に入り、9時には寝ます。土曜日、日曜日は午前中に1時間、今まで学習した問題の復習や、次の週に学習する項目の予習をしています。勉強が終わってから、ゲームやテレビ、遊びをする約束になっているので、早く遊びたいために、早く勉強を終了させるように頑張ってくれています。



「我が家の家庭学習」

私には、6年生の息子がいます。学校と野球少年団との文武両道を目指し、小学校2年生から一緒に頑張ってきました。一番心がけていたことは、一人で頑張らせるのではなく、一緒に悩み考え、前に進むことでした。低学年の頃は、本読みの宿題を一文ずつ交互に読んでみました。すると苦手な本読みも楽しいコミュニケーションの時間へと変化していきました。高学年になると、各教科の問題が高度になり、私自身すぐに答えを出せなくなりました。そんなときは、教科書やインターネットを照らし合わせて必死に答えを導きました。今では逆に息子が得意気に問題を出してきます。その繰り返しがコミュニケーションUP、学力UPにつながっていくのだと感じています。共に学んだことで、自然と家庭学習の基礎が身に付きました。中学に向かい少しずつ息子との距離はできてくると思いますが、口だけで頑張らせる母ではなく、共に学べる母であり続けたいと思っています。

< 中学校 >



「苦あれば楽あり」

「後でやる」が口癖の我が子。「苦あれば苦あり」より「苦あれば楽あり」の方が心に余裕がうまれると説明するものの、どうしてもものんびりしてしまう様子。そこで、宿題ができた夕食にするというルールを作り、帰宅したら机につく姿が少しずつ見られるようになってきました。後に回せば眠くなったり疲れてしまうものです。机で学習することを習慣にして、学校でその日にやったところ、明日やるところを読み、理解を深めるようになってくれたらと思います。



「漢字1P」

我が家では、小学生の間、毎日漢字1ページを、母が問題を出し、子どもがそれを書いていました。

毎日同じテーブルで顔を合わせながら、漢字1ページと学校の宿題を1時間ほどかけてやっていました。ドリルからの書き写しではなく、ノート1ページに振り仮名を書いておき、子どもがその振り仮名を見て漢字を書く。間違えると間違えた漢字1文字につき、1行増やされるというルールでした。6年生にもなると、間違える漢字はほとんどなく、スラスラ書けるようになっていました。

中学生になってからはやっていますが、勉強の習慣は身についたように思います。



「忘れ物ゼロ」

我が家の長男は第1子。初孫でもあり周りからも甘やかされて育ちました。性格はのんびり屋。私はついつい口や手をすぐ出してしまっ…結果、自分のことができない子を育ててしまいました。そんな小学校時代を経て、中学校へ入学。のんびり屋の長男の様子が変わり、自分のことは自分での気持ちができるようになりました。忘れ物をしないように、寝る前のチェック。箸と水筒を洗い、袋へ入れる。教科書やノート、筆記用具からハンカチ、ティッシュ…。明日の準備をしっかりとって就寝。そして朝、登校前の再チェック。中学生になり、厳しくもあり熱心な先生のおかげで、3年生になった今でも続いています。これから先もずっと、事前の準備や人に迷惑をかけないという思いやりの心が育ってほしいです。甘やかして育ててしまった長男の成長から学び、7つ離れた次男に、今、2度目の忘れ物チェックを習慣づけています。



< 小学校 >

「会話の大切さ」



我が家では、家族内での会話を大事にしています。子どもたちが学校であった出来事や、その時にどう思ったなど、食事中にいろいろと話します。子どもが3人いるので、それぞれの子どもの話をみんなに聞いてもらいたくて、あちらこちらから、言葉が出てきてしまうこともあります。そこは順番を守ってもらい、みんなの話を聞いてから話をしてもらおうようにしています。

学校で嫌な思いをしてしまったときも、その状況を思い出すと悔しさで、たまに涙が出てしまうこともあります。でも、ちゃんと自分の思いを話し、そして、こちらもちゃんと真剣に話を聞いてあげると、心がすっきりしたという表情や様子になって、いつもの姿に戻ってくれることが嬉しいです。

話をすることは気持ちが楽になったり、落ち着いたりします。それは嬉しいことです。だから、他の人の話も聞いてあげる…と。自分の経験を通して、他人の気持ちが少しでもわかってくれるのではないかな、わかってくれていたら嬉しいなと思っています。

「食事するときは…」



我が家では、食事をするときには、必ず「いただきます」「ごちそうさまでした」を言うように、家族皆で心がけています。

子どもたちは、「学校では当たり前だよ」と言いますが、その当たり前のことが当たり前前のようにできない人が多いように思います。

「いただきます」「ごちそうさま」は、作ってくれた方への感謝の意味もありますが、肉や魚など、「生きていた物を食べることにより、自分自身の体が作られていく」という、食材に対しても「ありがとう」の意味が込められているとわたしたちは考えます。だから、子どもたちにも、その考え方を自然と理解してもらい、感謝の気持ちを込めて、当たり前のように「いただきます」「ごちそうさま」を言える環境を作っていけるように生活していきたいと思っています。

「テレビとゲーム」



家は平日の朝はテレビをつけません。夜も20時頃には消えます。また、おもしろい、見たいと思う内容でなければ、子どもからテレビを消します。特に教えたわけでもなく、なんとなくテレビを消して過ごしています。

ゲームも、やりたいときには必ず「ゲームやってもいい？」と聞いています。ゲームを少しやりすぎてると、思ったときは「やっていいよ」の返事をすぐにはしないで、間を空けて「やっていいよ」と言うと、笑顔になって「ありがとう」と返ってくる時があります。

ゲームをしたいときに、声をかけてくることも、特に気にしてなく、なんとなく身についた家の約束事です。

「お手伝い」



我が家は4人の子どもがいます。中学校3年生（長男）、小学校4年生（長女）、幼稚園年長（次男）、2才10か月（次女）です。私は母親ですので、皿洗い、洗濯物をたたむなどの家事をやってきました。しかし、これらをお小遣い制にし、子どもたちにやってもらおうと考えました。もちろん全て子どもたちの案で、皿洗いが60円など決めさせました。お風呂洗い、靴そろえ、洗濯物をしまうなど、色々なきまりを紙に書いて壁に貼ってあります。月末には、働いた分のお小遣いがもらえる喜びを感じるとともに、家事の大変さをおし、大きくなったときに自然と家事ができる子に育つと考えています。小4の娘はご飯が炊けます。お米の研ぎ方を教え、合数、水の計り方、予約セットまで覚えしました。6才の息子は、自分でお風呂を洗い、一番風呂に入っています。全て親がやるのではなく、子どもたちにも大人がやっている家庭の仕事をやらせてみるのも将来の宝になると思っています。

「わが家の約束ごと」



家族で団らんできるのは、夕食のときだけ。食事のときは「テレビをつけない」「いただきますからごちそうさままで席から動かない」という約束があります。集中して食事をするため、その日にあったことを楽しく話しながら食事ができて楽しい時間になっています。

「家族みんなで助け合いごはん」



夕食の前には、手を洗い、テーブルへお皿や料理をバケツリレーのようにみんなで運びます。いつまでもゲームをしていて手伝わないとみんなに叱られます。

「いただきます」と手を合わせて一緒に夕食が始まって、食べ終わった人から自分のお皿を流しに持っていき、夕食が終わります。

みんなで支度すると、夕食が一層おいしくなります。

「家族のきまり」



私たち家族のきまりは、あいさつと会話をする事です。

仕事の都合で、1週間家族全員がそろわないときがあります。そのため、家族で過ごせるときは、あいさつから始まり、できるだけ会話をするようにしています。一時は子どもも自分の部屋に閉じこもりがちだったのですが（年頃もあると思うのですが…）、普段から小さなことでも話しかけることを心がけるようにしたら、家族の団らんも以前より増えたように思えます。

「帰宅時間」



上の子が幼稚園から中学卒業まで守ってくれたことがあります。夕方5時のチャイムが鳴ったら家へ帰ること！

部活動等で間に合わないときでも、そろそろかな、と思っていると、だいたいの通学時間を足したくらいに帰ってきます。

休みの日にちょっと遠くまで自転車で出かけると、5時に出ても、家へ着くのは6時前後。中学生じゃ…、と思うものの、もっと早めに帰るようになってしまっただけですね。自分なりに考えて行動してくれていたようでした。

長男のおかげか、下の子たちも夕方5時のチャイムで帰ってきます。

それが我が家の決まり事になっています。あと数年、下の子2人もずっと守ってくれることを期待して、毎日を過ごしていきたいです。

「自分のやること」



小さい頃から、兄が学校から帰ってきて、体操服類は洗濯入れへ、給食類は流しへ出すというのを見ていたためか、弟には教えていませんが、帰ると実行してくれます。ときに、疲れて帰ってきたり、遊びが主になってしまうと忘れていますが、「忘れていないことない？」と声をかけると、すぐに思い出し、行動してくれています。小さなことですが、仕事で帰ってくるのが遅いため、いつでもやってくれてあると助かります。帰ってからの「おかえり」の交換もほっとします。

< 中学校 >

「何事もけじめをつけて」



スマホはみんな持っているので、持つことになるけど、親としては心配です。やり過ぎないように、金曜日の夜から日曜日の夜まで渡すようにします。平日は出掛けるときだけ渡します。子どもはずっと使っていたいけれど、約束はきちんと守らせます。

「学校、部活で頑張っているから、家では解放してくれ」と子どもは言います。オンとオフを使い分けています。

「SNS正しく使って家族の絆」



我が家では、最近タブレットを購入しました。主に子どもたちがインターネット、YouTube、ゲームなどに使っています。

タブレットを使うにあたり、リビングルーム以外では使わないというルールとしました。一人で隠れて使うのではなく、家族から見える場所で使うことで、正しい使い方やマナーを学んでほしいと思います。

現在、私が単身赴任となり、離れて暮らしていますが、LINEを家族のコミュニケーションの便利なツールとして使っています。

「携帯と家族の絆」



約束やきまりを守ってくれません。

まず、友達と遊びに行くのはよいのですが、帰りの時間を守ってくれません。

「携帯電話を使う時間は9時までだよ」と言っても守ってくれません。

「守らなければ取り上げるよ」と言っても、ピコピコやっているの、実際に取り上げると怒り出します。

「言葉遣いに気をつけましょう」と言っています。「大きな声で挨拶をしましょう」と言っています。



「絵本の読み聞かせ」

我が家では、小学校4年生のお姉ちゃんが毎夜、下の子どもたちに夜寝る前の布団の中で絵本を読んであげています。本を読むのが大好きな娘は、弟と妹に読んであげるととても喜んでいて、子どもは素直で、ものがたりをよく覚え、私に話を聞かせてくれます。お姉ちゃんありがとう、きっと弟と妹にも伝わっていることなのでしょう。昨年亡くなった祖母が、毎夜娘たちに絵本を読んであげていました。そのおかげで、今、本を読む楽しさを学んだと思います。きっと、弟も妹も本が大好きになることなのでしょう。

「週末は図書館へ」



我が家では、普段の土日はお金をかけずに楽しむ（その分、祝日はお金をかけてもいい）という暗黙のルールがあります。そうすると、必ず行くことになるのは図書館です。中央図書館は、木のぬくもりのある建物で、落ち着いた雰囲気が入っています。どうしてもという用事のない限り、毎週必ず行き、親子でたくさん本を借りてきます。今の時代は、電子書籍などという物もあるようですが、やはり、手にとって読む本の方が馴染みます。

時々、大東図書館にも行きます。大東は、新しい本がたくさんあるし、図書館の前の休耕田では、季節ごとに、菜の花、ひまわり、コスモスの畑を見ることができるとも楽しみの一つです。図書館では、ときにはマンガをどっさり借りてくることもあります。また、DVDを借りてきて、家族で映画鑑賞会をすることもできます。借りてきた本は、各々がお茶の間のテーブルで広げて読み、いつの間にか情報交換をしていることもあります。

こうして考えてみると、図書館は我が家の生活の一部です。

「うちの読書」



我が家のリビングにはテレビがなく、平日の夜、家族全員テレビを見ることはありません。きっかけは、学童保育に通う長男が帰宅後、やるべき事がおろそかになったり、遅くなるからというものでした。そんな生活が当たり前となった今、長男も保育園に通う次男も、夕食から就寝までの空いた時間を読書（読み聞かせ）にあてることも多く、親子共々空想の世界に浸る夜を過ごしています。家族団らんでは、自然と本の話題になることが多く、毎週の図書館通いが一家の行事となっています。

「毎日読書」



我が家には、小学校2年生のお姉ちゃんと幼稚園年中の弟の2人子どもがいます。小学校の宿題で、お姉ちゃんが毎日読書という項目があり、図書館に定期的に通うようになりました。借りてきた本を毎日読むのですが、宿題として読書が出る前から、我が家では、夜寝る前に読み聞かせをして寝かしつける習慣があったので、お姉ちゃんも毎日宿題の「毎日読書」を寝る前にしていました。

すると、いつの頃からか、お姉ちゃんの横に弟が寝て、弟に対して読み聞かせをしてあげるようになりました。

小学校の宿題のおかげで、姉弟の絆も深まり、とてもいい習慣ができたと思います。



「本のある生活」

我が家では、子どもが絵本に興味を持つ前から、図書館に行ったり本を読んで聞かせていました。昨年あたりまでは、週に一度は必ず中央図書館に行きました。小さいときは池の周りを散歩したり、ちょっと足をのばしてすいのやさんでおでんを食べたりしました。土曜日、日曜日に行けるときは、主人も一緒に行きます。幼稚園の頃になると、自分で読んだり、読んでもらいたいものを選ぶようになりました。小学校に入ると、シリーズものや読んでおもしろかった著者の他の作品を探して読むようになりました。中学年頃からは、親子で情報交換をして楽しかった作品などを読み合ったりしています。親子で大好きな「ムーミン」や「星の王子様」は映画になったので見に行きました。近頃は読み聞かせる機会はぐっと減り、それぞれの読書を楽しむことが多くなりましたが、本についての会話を続けていけたらな、と思います。



「親子の時間にできること」

娘が小さかった頃は、夕ご飯の後や就寝前に絵本の読み聞かせをするのが日課でした。一冊の本をゆっくりと時間をかけて読む、大切な親子のひとときでした。小学生になってからは、宿題や習い事、友達と遊んだりして忙しく、親子で過ごす時間は少なくなり、なかなか図書館にも行けなくなってしまい…。娘に本を読んであげることも、いつの間にかなくなっていました。ところが先日、学校から帰宅した娘から、「お母さん、私学校で一番たくさん図書室の本を借りたって発表されたよ！全校で1番だって！」と嬉しい報告が。どんな本を借りたの、どんな話だったなど、久しぶりに本の話がたくさんしました。小さい頃の読み聞かせが娘を読書好きにさせてくれたのかな、と思うと、あの頃の親子の時間がより一層大事に思えました。



「毎日の日課」

娘が生まれたときから、絵本の読み聞かせをしようと考え、赤ちゃんのときから毎日寝る前に本を読むのが日課になっています。色々な本に出会えるよう、図書館に行ってお薦めの絵本を借りたり、娘が大きくなってきた頃には、見たい本を自分で選ばせたりしていました。お気に入りの本は何度でも繰り返し「読んで」と頼まれ、毎回読んであげたこともあります。自分で内容を覚え、娘が読み聞かせをしてくれることもありました。あと何年、寝る前に読み聞かせをしてあげられるかはわかりませんが、娘が本を選んで布団にもってきてくれるまでは親子で楽しく本を読み続けたいと思います。



「寝る前の読書」

子どもたちは、9時になり、テレビを終えると歯磨きに行きます。歯磨きを終えた子は布団に入って図書館から借りてきたたくさん本から選んだ本を読みます。自分で読む本、一緒に読む本、親に読んでもらう本、その日によって色々ですが、読み終わるまで起きている場合は少し夜更かししています。眠くなった子は布団にもぐって眠ります。あまり遅いと「もう電気消すよ」と言って消してしまいます。眠る前の読書は儀式のようなものです。

< 中学校 >

「文字に親しむ環境作り」



本や新聞に興味を持ってもらえるよう、子どもの目に付くところにそれらを置くようにしてきました。おかげで自分から進んで本を読んだり、新聞記事を読むことが自然と習慣化されたと思います。本を読んだり新聞を読んだりしていると、周りの様々なことに対して深く考えられるようになり、自分の意見として自信を持って他の人に伝えることができるようになるので、あらためて文字を意識して読むことはすばらしいことだなと感じました。

ただ、子どもなので、大人のように上手いかない場合もあります。わからない事に対しては（昔ながらのやり方ですが）辞書や図鑑等を使って、なるべく自分の力で調べさせていますが、親に直接聞いてきたときには、こちらも子どもと同じ目線で辞書やパソコンを使って調べ、答えるように努力はしています（少々大変ですが…）。でも、そうすることで、親も知識を深めることができ、親子の信頼関係もしっかりしてくるので、まさに一石二鳥だなと思います。大変だと感じることで面倒だと思わずに、丁寧に子どもと関わられたらと思います。



< 小学校 >

「優しい気持ち」

17時のチャイムが鳴ると、一斉に帰ってしまうお友達。夕ご飯を食べ終わると、テレビをポチッとするのが我が家の定番でした。

春から仕事を始めた私は、夕ご飯を待たせてしまうこともしばしば。終わる時間が定まっていないので、家に帰るとドタバタするのです。そんな日々が続いていて…。

ある雨上がりの夕方、いつものように、急いで帰り、階段を駆け上がろうとする私に、息子が「もうぜ～んぶ寄せたよ（ママ何急いでんの？というような口ぶり）。小学校3年生の息子をギュッと抱きしめました（本気で嫌そうでしたけど！）。「〇〇してね！」と手紙で書いたときは、「忘れたー！」と言っていた息子ですが、今日は気を利かせたなど、驚きと嬉しさでいっぱいでした。そう！自分で気がついてやってくれたんだと！

家族を思う気持ちで動いてくれたことが何よりも嬉しく思います。今日もお腹を満たされた2人が、ソファで仲良くテレビを見ています。そんな後ろ姿を見て、洗い物をするのが最高の幸せです。



「大好きな野球」



我が家は4人家族です。5年前長男がスポーツ少年団に入団してから、週末は野球一色の生活になりました。長男が1年生の冬に入団した当時、次男はまだ幼稚園の年少で、暑い日も寒い日も、私や父親と、いろいろなグラウンドへ出掛けては、少年団のお兄さんたちや保護者の方にかわいがってもらいました。次男も、今ではすっかり野球少年となり、ますます家族4人で週末を一緒に過ごしています。今は、野球をとおして、家族の絆が深まったように感じています。大好きな野球を全力でプレーする息子たちに、これからも、親として、全力でサポートし、応援していきたいと思います。

「5人の宝物」



我が家は子どもが5人。一番下の子は3才で、まだまだ手がかかります。お姉ちゃん、お兄ちゃんもまだまだ甘えたい部分があると思いますが、弟や妹のことをよく面倒をみてくれます。お母さんが忙しくて手が離せないときや、お願いをすると、「サッ」と手伝ってくれます。一緒に遊んであげたり、絵本を読んでくれたりと頼れる存在です。

毎日毎日、にぎやかで、仲良く遊んでるときもあれば、けんかをするときも本当ににぎやかです。

そんな空間で生活できることを楽しみながら、これからの成長を見守っていきたいです。そして、子どもたちには、お互いを思いやり、助け合いながら、日々元気に過ごしてほしいです。

「我が家の書き初め」



私の家族は、新年にすることがあります。それは、「かきぞめ」です。一人一人が、自分で今年一年の目標を決め、筆に墨を付けて半紙に自由に書きます。1年生の下の子も、筆で頑張って一生けん命に書きます。その目標は、毎日見ることができる寝室に貼っておきます。

それぞれが、その目標に向かって1年頑張ります。家族で筆に墨をつけて順番に書くの

ですが、大人になって、墨で字を書くことがなかったので、すごく楽しいです。さすが授業で学習している6年生の娘は上手です。これからもずっと続けていきたいです。

「キャンプを通じた支援体験及び人間交流」



はじめに、我が家の家族構成は、私、妻、長男（小学校6年生）、長女（小学校1年生）の4人で、子どもたちは毎日元気いっぱい登校しています。

今から4年前、長男が小学校2年生、長女が3才の頃、掛川市倉真で様々な森林活動をされている「NPO法人 時の寿の森クラブ」に友人を介して出会い、クラブ員として入会させていただきました。

クラブでは、森林の再生事業（森林保全・森林資源活用・子どもたちへの自然回帰イベント等）を主な活動としており、わたしたち親子も、山・川での遊び、動植物や昆虫の生態勉強、ときには陶芸教室をとおして、クラブ員さんと交流をしています。

クラブ活動をとおして気付いたこととして、自然の中で遊び、学ぶ子どもたちの瞳はとても輝き、決して部屋の中でゲームに興じているときには発せられない「覇気・活気」が力強く伝わってくるということでした。

自然の中でかがやいている子どもたちに、我々親もすっかり魅了され、元来「インドア派」であった私も、「自然」に興味を持つことになりました。

今では、クラブ員としての活動の他に、キャンピングカーを所有し、全国規模のキャンピングカークラブチームの合同キャンプに参加し、県内のたくさんの方々と交流しております。交流を重ねる度に、引っ込み思案気味であった子どもたちの積極性が向上していく姿を見ることができ、とても嬉しく思っています。

夏のキャンプでは、川遊びや釣り、大人数でのバーベキュー、冬には星空鑑賞会やキャンプファイヤーの催しを行い、普段子どもたちとなかなかできない会話（恋愛相談？悩み？）も楽しいものです。（テレビやスマホ、ゲームに邪魔されません）

わたしたち家族がよく言う言葉の1つとして、「次のキャンプいつ行く？」があります。この言葉に表されるように、家族全員が共有して楽しみ、学べる醍醐味は、キャンプならではの感じるのと同時に、キャンパー冥利に尽きます。

これからもキャンプを通じた自然体験をたくさん行い、親子で「感性」や「想像力」を高めていきたいと考えております。

「我が家の小さな芸術家」



我が家の娘たちは、ゲームやテレビをあまり見ない。

我が家の娘たちは、紙と鉛筆、セロテープがあれば何時間でも遊べる。

家から出る廃材は、格好な玩具である。

いろいろな姿に変わり、生まれ変わる。

玄関は、娘たちのギャラリーである。誰の評価がほしいのか、やはり訪問客に見てほしいのか、自分で眺め、御満悦。

掃除をしながらいつも思う。

いつまで作品で、いつからごみなのか？

凡人の私には、理解できない世界である。

しかし、私は、娘の感性と想像力にいつも感心している。

「いい夢見ろよ！」



我が家では、父と子どもたちが毎日交わしている「言葉」が。それは子どもたちが寝るときに、父が「いい夢」と言うと、子どもたちは「見ろよ！」と言っています。

他にも、父「おやすみ〜♪」、子ども「おやすみ〜♪」、父「いい夢〜♪」、子ども「見

ろーよー♪」とリズムに乗せて歌っています。いつからやり始めたのかは忘れてしまいましたが、いつの間にかそれが我が家のおやすみのサインになっています。

そのおまじない効果なのかはわかりませんが、長男は寝ながら大笑いをよくしています。笑い返すとまた笑う、返すことは1、2回で終わってしまいますが、きっと楽しい夢を見ているんだな、とほっこりします。

長男、長女、次女、全員それをやっているのだから、将来子どもたちが親になったとき、自分の子どもたちにやってくれたらいいなと思います。

「ラグビー」

学

我が家の次男は体格がよく、力をもてあましている感じが、何かスポーツで発散させたいと考えていました。そこで始めたのがラグビーでした。ラグビーは道具を使わず、体でぶつかって、走って、投げてと、まさに我が子にうってつけでした。どちらかというとマイナーなスポーツで、ラグビーボールを買いに行ってもお店に置いてない状況でしたが、ワールドカップの盛り上がりもあり、一躍注目させるようになり驚いています。ラグビーと違い、本気でタックルするため、けがの心配はありますが、本人も楽しくスクールに通っています。また、次男のおかげで、ルールを覚えることができ、家族全員でラグビーを楽しんでいます。

「伝える力練習中です」

和

子どもの素直な反応は、時には微笑ましく、時には直接的、時にはつれない…。そんな子どもたちに一喜一憂する日々を送っています。

我が家の子どもたちは、今日の出来事を率先して話すタイプではないので、他愛もないおしゃべりが私の唯一の楽しみです。時々熱く語り出すのを聞くと、「へえ、そんな風に考えているんだ」とか「すばらしいプレゼンだ!」と感心することもあり、楽しみです。平日の子どもたちは、宿題と塾で忙しく、テレビを見たりゲームをしたりする時間が至福の時なので、こちらから真剣に話した時でも上の空だったのですが、「母に1分だけ時間をちょうだい」と切り出すと、YouTubeもゲームもやめて話を聞いてくれます。私は余分な小言を言うってしまう傾向にあるので、1分で本当に伝えたいことを話すのが丁度いいと思っています。最近は、子どもたちが意見をしてくれるようになり、ちょっとした話し合いができるので成長を感じています。もちろん、1分では足りず、言い過ぎてしまうこともあります。そんなときは寝るまでに関係修復に努めます。1日の終わりは穏やかな気持ちで眠りについてもらいたいと思っていますからです。子どもたちが生まれて私の人生はとて豊かになりました。

「ハイキング」

学

学校では、父親が主体となって活動する「父親クラブ」というものがあり、我が家の父親は楽しんで活動しているようです。毎年秋になるとハイキングがあります。今までに小笠山、大尾山、東海道などを歩きました。父親クラブという名前で活動していますが、我が家では、毎年母親の私も参加して家族全員でハイキングを楽しんでいます。途中、歩きながら子ども達とおしゃべりをしたり、どんぐりを拾ったり、他の子どもたちとも関わり合いながら、毎年楽しませてもらっています。このクラブに加入して、毎年家族の思い出が1つずつ増えていくことがとても嬉しいです。

子どもたちやお父さんにありがとうと伝えたいです。



「娘が私に教えてくれたもの」

娘が4年生になり、バレーボールのスポーツ少年団に入団しました。入ってすぐは娘を含め6人の団員で1年間過ごしてきました。そして、今年の夏、桔梗が丘VSC創立以来初めて全国大会出場を決めました。男女混合チーム枠が全国大会にできた初めての年でもあって、本当によい記念になりましたし、大切な思い出になりました。

そんな子どもたちの姿に心打たれて、親たちも市長杯大会に参加したり、次回の試合に向けて打ち込んでいる日々です。子どもをとおして色々なことや人がつながっていきます。「頑張れ！」から「頑張ろう！」に…。3、4年生が入団して、賑やかになったと思うと、6年生がトレセンでいない日があり、あっという間に、卒団の時期を迎えます。ミスしたとき、側に来てフォローしてくれることも、頼れる大きな背中も、カバーも、あともう少しです。

娘がスポーツ少年団に入団して、娘と向き合い、話し合い、楽しむ時間が増えました。私の膝小僧のアザも増える一方ですが、いつの間にか私もバレーボールが、桔梗が丘VSCが大好きになりました。



「あのね だいじょうぶ だいじょうぶ」

上記の題名は、吉丸房江さんの本のタイトルです。一部抜粋します。「人間にはその人にふさわしい問題しかやってこないし、しかも、すべて解決できる問題しかやってこないのです。もし、あなたの目の前にやってきた問題がとても難しく思えても、心配したり怖がったりすることはありません。それは、あなたなら解決できるからやってきたのです。…心配するのはやめましょう。何も心配することはありません。難題が降りかかってきたら「大丈夫。山よりも大きなイノシシは出ない。」と言い聞かせてください。すべてはあなたの身の丈に合った問題です。あなたならば解決できます。…」

私は自分自身、家族に「だいじょうぶ！だいじょうぶ！」と言います。本当に大丈夫なことしか起きないし、気持ちもリラックスできます。心配無用。まずは「だいじょうぶ」を合い言葉にしてはどうでしょうか。



「家族そろって朝ご飯」

家族全員が一緒にいられる時間は限られています。同じ屋根の下一緒に暮らしているのに、時間数で考えると、とても寂しいことです。

我が家では朝ご飯の時間をとても大切に考えています。そのため、朝6時には朝ご飯がスタートし、季節のフルーツや野菜もしっかり取り入れています。そして何よりも大切なのはテレビを消すこと。静かに食事をするのではなく、たくさん話すことが目的です。子どもは父とたくさん話したいが、家族のために一生けん命働く父は帰宅時間が遅いです。そして、父も子どもの話をいっぱい聞きたい。それを自然に克服するためには、朝はとても貴重な時間となり、勉強のこと、友達のこと等、話題はいっぱいです。

そして美味しくご飯を食べ、すっきりした気持ちで登校させるように努力しております。子どもの気持ちを受け止め、アドバイスをし、心を満たします。

それとともに、バランスのとれた食事により、お腹を満たします。これらは情緒の安定につながっていると思います。

平凡ですが、私の家族では唯一これを心掛けて毎日生活をしております。



「目標に向かってともに励む」

1年を通して、運動会、持久走大会など、上の子と下の子が同じ目標に向かって努力する行事がいくつかあります。その行事が近づいてくると、我が家は家族全員で取り組みま

す。父親と全力で競走してみたり、母親は自転車でマラソンの先導をしたりしています。また、縄跳びも家族全員で競い合っています。

昔、私たちが子どもの頃は、それほど楽しい遊びもなかったので、「ママたちが子どもの頃は、やたら冬は縄跳びばかりやっていて、みんないろいろ跳べるようになったものだよ」と先日話したばかりです。走る、縄跳びする、ボール遊びをする。これらはいつの時代も親子で会話しながら、ふれあいながらできるものなので、これからも大切にしていきたいと思います。

「スポーツ少年団」



小学校2年生から始めた少年野球。最初は同じ練習にもついていけず、ただ、白球を追いかけていました。ティーボールでも補欠でしたが、少しでも野球に興味を持ってほしくて、高校野球を見に連れて行きました。4年生のスーパージュニア大会は、投手としてベスト4、5年生のジュニア大会は、4番ファーストで準優勝。足が遅いから、打球を遠くへ飛ばすために、夜遅くまで素振りをする我が子につきあいました。

5年生の秋に、肘を故障したとき、何が何でも復活させようと、親子で色々なトレーニングを開始し、今でも継続しています。

親子、家族で過ごした「今」という一瞬を、子どもの成長とともに過ごせた少年野球に感謝です。

「家族皆で」



我が家は、「家族皆でできること！」として、下の子が小学校へ入学したときにテニスを始めました。今では、妹の家族も含め、兄弟家族皆で休日にテニスコートで練習したり、夏休みにはテニス合宿や旅行にも行くことができました。

家族、親戚、皆で共通のスポーツをとおして、楽しい時間を過ごしています。

「変わりゆく環境の中で、静と動のある生活の中での挑戦」



自然が大好きな息子と幼少時代から毎年恒例の夏休み「虫取り」を行ってきた我が家。最近家が建ち並び、空き地もなく、トノサマバッタやカマキリ他、どこへ行ったのやら…。

変わりゆく環境の中、自然を探しながら今年の夏の夜、初めて自分自身でカブトムシを捕まえて大喜び。この体験こそが息子を成長させてくれるものだと実感。汗まみれで帰宅すると、みんなで「日本むかし話」を見て、静かな時を過ごしたり、祝日は家族でバドミントン対決と、常に想像力を養うべく、自ら行動を生み出しています。今の目標は息子の陸上中距離挑戦。まだまだ挑戦は止まりません。

「当番」



我が家では、家のお仕事を、段ボールで作ったルーレット型で分担しています。

- ・トイレ掃除
- ・お風呂掃除
- ・洗濯（たたむことも）
- ・玄関掃除（ほうきで掃く）

月ごと回して分担が変わるようにしていて、子どもでもできることからやってもらいます。誰かができなかつたら、やれる人がお手伝いをし、無理強いにならない程度に続けています。今では、自然と玄関掃除をしてくれるようになりました。

同じ掃除場所が続くときもありますが、まずは気持ち良くやれることを1番に見守っています。

「我が家のエピソード（秋バージョン）」



毎年、秋になると、我が家では、お祭りごっこやミニ運動会ごっこをします。手作りの屋台を引き回したり、ロープにお菓子をつけて、お菓子食い競争をしたり、親の上に子ども

もが乗ってポーズを決めるという親子ゲームを見せ合ったりしています。

毎年重くなっていく姿に成長を感じながら、親も楽しんでいきます。

今しかできない「ごっこ遊び」など、親と子のふれあいを大切にしたいと思います。来年もできることを期待しています。

「温かい掛川の街」



わたしたち家族は自営業をしているため、子どもの休みに合わせて休みを取れることが年間ほぼありません。ですから、営業が早く終わった日は夕食に出掛けることがあります。それでも19時過ぎに小学生が外にいることに少し抵抗がありました。でも、掛川のお店の方々は、主人の仕事を理解し、快くお店で迎えてくれます。また、お店の方だけでなく、周囲のお客様も娘にとってもよく話しかけてくれます。寝る時間に合わせて帰宅しますが、その点でも、よく寝るコツを教えてくれたり、昔の遊びを教えてくれたり、こういったところは掛川に住んでいてとてもよかったと思います。核家族のわたしたちにとって、とても勉強になる時間です。これからも大切にしていきたいと思います。

「持久走の練習」



持久走大会の1か月くらい前から、家族みんなで早起きして一緒に走る練習をして応援していました。子どもたちもお父さんとの朝の時間を楽しみにしています。持久走大会が終わっても、家族みんなで続けていけたらと思います。

「家族でマラソン大会参加」



我が家では、子どもたちが幼稚園年長の時から、市民マラソン大会やチャリティマラソン大会に毎年参加しています。「掛川茶新茶マラソン」「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」「袋井クラウンメロンマラソン」「チャリティマラソンinつま恋」「森町ロードレース」にファミリーの部や各々走れるコースの部に出場しています。

雨の中や寒い中での大会で、走るのが嫌になった時もありますが、家族4人でどの大会も「完走できた!」「頑張った!」と嬉しい気持ちで終われます。目標をもつことや達成感、満足感を感じられることは、成長していく中で大事なことだと思っています。健康のためにも、家族で続けていければいいなと思います。

「家族とは」



我が家は、今では珍しくなってきた三世代（9月末に95才でおばあちゃんが亡くなるまでは四世代）で同居をしています。年齢差83才。育ってきた時代も環境も違うので、お互い我慢することも多々ありますが、同居してよかったなと思うこともたくさんあります。家に一人でいるという子がいません。食事も話す相手がいなくてひとりぼっちで食べることは滅多にありません。話したいときに聞いてくれる人がすぐ近くにいる、そのかわり、行儀が悪ければ誰かしら小言を言われる、そんな家族です。

家の中に年寄りがいたため、誰かの面倒をみることや、世代を越えて誰とでも話すことが自然とできるようになりました。

倉真小は80人弱の小さな学校です。全員の顔と名前がわかります。それでは人見知りせず話すことができるその性格を生かし、積極的に前に出て、今しかできない事をどんどんやってみよう子どもと話をしました。集会があれば司会をやらせてもらう、代表の言葉を発表するなど、チャンスがあったら手を挙げてみることにしました。

1つ2つとチャレンジしていく内に、人前で話したり、まとめたりすることが楽しくなってきたようです。

下級生の面倒をみる、同級生との横のつながりを大切にする、目上の方への気配りなど、

家族との関わりの中で自然と身に付いたことを学校生活に生かすこともできます。子どもにとって家族はお手本、見本、そして教材となる大切な存在なんだと思います。

「バドミントン」



我が家の中心にバドミントンがあります。もともと私が高校の部活で始めたスポーツで、長女が3才の時に練習を再開しました。練習は夜のため、チームの皆様に交代で遊んでもらいながら続けてきました。

次女の出産、長男の出産と、5年くらいできない時期もありましたが、今では皆で練習に出掛けて体育館の隅で子どもたちとバドミントンを楽しんでいます。そして、高校生になった長女がバドミントン部に入り、小さい頃遊んでくれた方々とも一緒に練習できるようになりました。バドミントンは、年齢も、体型も男女も関係なく楽しめるスポーツです。これからも家族で一緒に体を動かし、同じ時間を笑顔で過ごしたいと思います。

「折り紙の上達について」



最近では、折り紙に夢中になっています。学童で先生方に色々とお教えていただき、家に帰ってからも作っています。図書館で何冊か本を借りてきて、色々なものを作っている姿を見ると感心します。親の私たちは全くダメなので、驚くばかりです。

学校でも、昼休みの時間、折り紙を夢中で折っていますと先生が教えてくれました。折り紙を友達と交換したり、折り紙の本を見て一緒に作ったりしています。10月の「ハロウィーン」、12月の「にこぐんまつり年長児招待」と行事があり、自分たちで考えて、たくさん折り紙を作っていました。細かい作業をとおして、手先が器用になったり、折り方が上達したりしてもらいたいと願っています。子どもと一緒に折り紙を折ることで、触れ合う時間が増えて嬉しいです。

さらに折り紙で集中力が上がる効用があるとのことなので、集中力が上がってくればよいです。

「笑顔で行ってらっしゃい！」



我が家は、おじいちゃん、おばあちゃん含めて6人家族です。それぞれが仕事や学校に出掛けるときに、「行ってらっしゃい！気をつけてね！」の言葉と一緒に必ずハイタッチをして、笑顔で見送るようにしています。

「朝の日課」



我が家では、父と子どもたちが家を出る時間が同じです。道路に出る手前で、車に乗った父に皆でハイタッチするのが我が家の朝の日課です。大きな声で、「行ってらっしゃい！気をつけてね！」と先に走っていく車に皆で声をかけます。その後が続いて歩く3つのランドセルに私はもう一度、「行ってらっしゃい！気をつけてね！」と手を振りながら大きな声をかけています。

以前、何かの本で「朝の気をつけてね！の一言で、相手が守られる言霊って、本当にあるんですよ」と読んだことがあります。子どもたちが休みでも、父が仕事へ行く日は、みんなで見送る。これが毎日を笑顔で過ごすための我が家の朝の日課です。

「目標に向かってがんばる」



水泳、持久走、習い事の発表会等、その時々の子どもの目標とする事柄を、親も一緒に練習するよう心がけています。

「がんばれ！」「練習しなさい」と口で言うだけでは、親もイライラしますし、子どもも「やる気0」。そんな日々が昔は続きました。「お母さんも一緒にやるから頑張ろう！」

と言ってみた時から、親子共々ずいぶんストレスも減り、やる気やふれあいも増えたなと感じます。

忙しい日々の生活の中で、少しでも時間を見つけて一緒に何か頑張ることの大切さを実感しています。理想通りにいかない日もたくさんありますが、意識して「一緒に」を心がけていきたいものです。

「我が家のハイタッチ運動」



学校では、ハイタッチ運動を行っている。年数回だが、集団登校の場所で、大人が子どもたち一人一人にハイタッチしながら「おはようございます」と挨拶をしていく。父は照れくさそうに高学年に挨拶をするらしい。そのような話をする中で、子どもとハイタッチをしたり、食事を一緒にとることができるのは、あと何年、あと何回くらいだろうかと、食卓で話題になった。我が家は共働きで、夫は夜勤もある。三交代制のシフトなので、月の半分は食事と一緒にとることができない。娘は高2、息子は小5で難しい年頃になってきた。確かにハイタッチで送り出すのはあと何回できるだろうか。

さあ、翌朝からやってみることにした。前日ケンカをしても、必ずハイタッチで「行ってらっしゃい！頑張ってるね」と送り出す。はにかみながら息子も力いっぱい手のひらを「パチン」とハイタッチ。思わず「クスクス」と笑顔がこぼれる。

あと何回できるかな…。

あと何回できるかな…。

「次男と父との日課」



我が家の次男は運動が大好き。決して走るのが速いとか、他の子よりここが優れているということもなかったのですが、毎日とにかく動いていないと気がすまないようです。でも、週末のスポーツ少年団などの習い事は、なぜかとても嫌がるので、親の私たちも無理に勧めていませんでした。

ある日、父が「最近太ったから夕方ジョギングでもやろうかな」と言い出しました。これは丁度いいんじゃないかと。それから毎日、父と次男でのジョギングが始まりました。あれから5年、今では年に何度かのマラソン大会に2人で出場するのが楽しみになり、大きな大会で上位入賞を目指して頑張るまでになりました。習い事をさせなくても、お金をかけなくても楽しめるスポーツもあるのですよね。

「あーんして」



「ママ、あーんしてえー」小学生になった息子は、今でもときどきこう言います。「1年生になったのに」「自分で食べれるでしょ」そう思った時期もありました。でも、「あーんして」なんていつまでも言うことではないですよ。家の外では自分で食べているんだから、夕食時くらいいいかな、と、今では要求されたときは「あーん」してあげるようにしています。すると、双子の娘が、「するい！私も！」。当然です…。こうして結局ずいぶん大きくなったはずの2人に「あーん」してあげる日々。自分の夕食がなかなか進まない日もありますが、来れも幸せな時間なのかな、と思いながら、もうしばらく「あーん」は続きそうです。

来年の今頃は、さすがにもうないかな。ないといいな。でもちょっと寂しいかもな。

「継続は力なり」



3人の息子がいる我が家。3人とも小学校1年生になると、書道教室に入った。兄2人は中3まで通った。小学校4年生の三男は待ち焦がれて始めたにもかかわらず、3ヶ月後には「卒業したい」と言い出した。小学校2年生で始めた英会話教室も1年で「卒業」。

小学校3年生で始めた少年野球も楽しいといいながら、目標は6年生での卒団ではなく、「1年間は頑張る」と1年更新。兄たちは少年野球も部活動も塾も、苦しい時、悩んだ時、それぞれあったが、「やめたい」と言ったことはなかった。

三男は「やめる？」と聞けば「やめる！」と即答するだろう。嫌々やらせても…と言われるかもしれないが、嫌なこと、苦しいことからすぐ逃げる癖については、この先困るのは本人だ。どれも自分からやりたいと始めたこと。続けることの大変さ、大切さをわかってほしい。書道教室も小学校の内は卒業させない。がんばれ。

そんな三男だが、小学校はまだ卒業したくないらしい。嫌々宿題をしているので、「宿題やらなくていいよ。卒業する？」と聞くと、「やだ！」とノートにかじりつく。

「会話の時間」

和

我が家では、食事の時間、特に夕食のときにはどんなに見たいテレビがあったとしても、必ず消して会話の時間をもつようにしています。その日あった出来事、悩み等を話しています。なかなか話しにくいことなどは、車でドライブしながら、母運転、父はちょっと一杯、子どもは好きなお菓子を持ってお話しします。面と向かって話さない分、子どもはしゃべりやすいようで、ぼつりぼつりと悩みを打ち明けてくれます。最初は軽い気分転換みたいな感じでドライブに行っていました。今は家族の大事なお話の時間となりました。これからも会話を大切に続けていきたいと思えます。

「二女は小さなお母さん」

和

中学生の兄が野球部のため、ときどき両親がいなくなる休日、活躍するのは小学校6年生の二女です。

私がやり残した洗い物をしたり、お風呂洗いを張り切る1年生の弟がぬれるので、着替えさせたりもします。高齢の祖父母の昼食の支度もやってくれます。鍋を温め直し、盛りつけや配膳をします。我が家でオムライスと言っているケチャップライスにスクランブルエッグを乗せたものは得意料理です。

友達と遊ぶ約束があっても、家のことはきちんとやってくれます。時には弟も仲間に入れてくれます。食いしん坊で体格はすでに私を上回っていますが、まるで小さなお母さん。いつもありがとう。

「おてつだい」

学

「お母さんは何かほしいものある？」

「お母さんは時間がほしい。お掃除を手伝ってくれたら、その分お母さんの時間が増えるんだけどな。」

そんな会話で始まった子どもたちとの玄関掃除。今では一緒に見ていなくても、お姉ちゃんと2人でやってくれるようになりました。

「お姉ちゃんがほうきで掃いたら、できた所からぞうきんで拭いていくんだ。」

効率も上がり、短時間でできるようになり、仕上がりのきれいさも私がやったのと変わらない状態にしてくれます。

寒い時期になり、大変になってきましたが、玄関から賑やかな話し声が聞こえてくると、お母さんの時間をプレゼントしてくれてありがとう、と感謝の気持ちでいっぱいです。

< 中学校 >

「自分で考える」



我が家では、「勉強しろ」と言いません。

勉強するメリットや、しなかったらどうなるかは話します。将来どんなことをやりたいか、どんな職業に就きたいか、そのためにはどういう方法をとるかを考えるようには言います。全ては自分で選択させるようにしています。

自分で考えて行動した方が楽しいと思っています。

たまに、「勉強するな、するな」と言っています。あまのじゃく作戦と密かに思っております。

「元気が一番！」



我が家は私たち夫婦、中3の息子、小4の娘の4人家族。40代の私たち夫婦は中性脂肪が気になる歳。中3の息子は高校受験を迎える。小4の娘は毎日ピアノの練習をがんばっている。息子は小さい頃から食べることが好き。私が食事の支度をしていると「今日のご飯は何？」と必ず聞いてくる。そんな息子が初めて高熱を出し、食欲がなかった。食事の支度をしていても、「今日は何？」と聞いてこない。それどころか、少し食べて「ごちそうさま」。そんな日が続いた。

娘もいつも一緒にテレビを見たり、勉強を教えてくれる兄が具合がわるく寝ているので、心なしか元気がなく、早く寝てしまう。

5日ほど経った日。息子が久しぶりに「お腹が空いた！」と言った。私は嬉しくて張り切って食事を作った。「今日は久しぶりにおかずが多いね。」主人が言った。美味しそうに食べている息子を見て、「元気が一番」心からそう思った。

「笑顔がいちばん」



我が家の3人の子どもたちは、いつもリビングで勉強をしています。初めは、仲良く楽しげに話しながらやっているのに、ちょっとしたきっかけで、すぐにケンカが始まります。以前の私は、怒ってケンカを止めていましたが、怒る方も疲れるし、嫌な気持ちになるので、あるときふと思い立ち、「ケンカをやめないならチューするよ！」と言ったところ、思った通り、子どもたちは大笑いし始めました。ケンカの原因など忘れて「えー。きもいー。」と、仏頂面が一瞬で笑顔に変わりました。いらいらしていた私も、子どもたちの笑顔に癒やされ、温かい気持ちになりました。怒られて、悲しい気持ちで勉強するよりも、笑顔で取り組んだ方がはるかに捗ります。普段から冗談を言い合い、笑いが絶えないおかげで、反抗期だった中3の長女も、最近ではずいぶん穏やかになりました。笑顔の大切さを感じる今日この頃です。

「バレーボールを通して家族で話し合ったこと」



幼稚園の年長から、掛川城北少年団のお世話になり、バレーボールに取り組んできました。良き指導者のもと、技術はもとより、マナーをはじめ、いろいろな面で教えていただきました。全国を目指し、いざ全国切符を手にした時、キャプテンという大役をいただき「どうしたらみんなとやっていけるか」「静岡県代表として恥ずかしくない態度とは」等、家族で話し合いました。選手村ではグリーンカードもいただき、準優勝という結果までいただきました。一人ではできない、チーム、家族皆の力だと話しました。

「小1夏から続行中」



「わぁー、ありがとう！助かるよ。」大げさでも何でもなく、私は感謝の言葉が出る。仕事から帰ってきてからやる家事はとても多い。頭の中で順番にやることを組み立てる。

そこで洗濯物を取り込んでくれてあると、「わぁー…」となるのだ。玄関掃きから靴ならば、今は風呂洗いや洗濯物とパワーアップした子どものお手伝い。勉強が仕事と思うときもあるが、子どもの優しい思いやりに応じて仕事を頑張り、おいしいごはんを作るのが我が家の土台になっています。

○お手伝いは当たり前ではない。(感謝)

○子どもは心も体も成長期。(子どもが上靴を洗うのは当たり前だけど、時々洗うサービス有)

○やってなくても文句は言わず促す。(非難ではなく誘導)

○8年間お手伝い続行中。(継続ではなく、あえて続行中)

「久々の家族旅行は長男の読んだ一冊の本から」



読書好きな長男。学校の図書館で「たま駅長」の本を読んだから、「たま駅長」に会いたいと言い出した。たまたま手にした一冊の本のことに興味を持ったのだからと、春休みも近かったこともあり、久々の家族旅行を企画。ねこに会うために和歌山へ！?

でも、こんなきっかけでもなければ、たぶん立ち寄ることはなかったかもしれない和歌山。電車の路線や駅の場所、時刻表などを調べ、何本かに1本のラッピング車両に乗り、駅長のいる駅で降りた。その日はたまたま、「たま駅長」は不在で、代わりに2代目の「にたま駅長」ではあったが、本で読んだことを実際に見たり体験したりすることができ、長男はとても満足していた。私たち家族も、長男とその一冊の本のおかげで和歌山の地に降り立ち、ふれあい、縁を結ぶことができた。

子どもたちの未来のために



子どもたちの学力を育むためには、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び行動する等の資質や能力は欠かせません。それらは、「人・もの・こと」と主体的にかかわる、豊かな体験や経験によって磨かれていきます。子どもたちの未来のために、子どもの姿を見つめ、家庭のものがたりをより豊かなものなしていきませんか。

